

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272300969		
法人名	特定非営利活動法人シンセア		
事業所名	グループホームたみの里一日乃出町 1F		
所在地	静岡県富士市日乃出町81		
自己評価作成日	令和4年9月28日	評価結果市町村受理日	令和4年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jiyosyoCd=2272300969-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で外出制限もあり施設内で季節を感じて頂けるようなレクリエーションやイベントを提供してきました。日常生活では皆様に役割を持って頂き、ご自身の自尊心を大切に生きがいの創出に努めております。面会制限が続く中でご家族様へ日常生活やレクリエーションの様子をLINEにて動画を配信しております。また職員の職場環境改善の一環で職場環境改善委員会を発足しハラスメントのない風通しのよい職場作りを目指しており、意見聴衆のために意見箱を設置し月に1回委員会で他施設との意見交換を行っております。研修については年間テーマに沿って有資格者職員が担当となり実施し職員のスキルアップ向上に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営理念「生き生き生きる」に基づき、「利用者に少しでも生活のはりをもってもらおう」「役割をもってもらえる工夫をしよう」を介護ケアの柱にしている事業所です。毎月鯉の日があり、ホットプレートを駆使したおやつ作りが盛んで、またミニミニ縁日ではチョコバナナやフルーツポンチに舌鼓するほか、落書きせんべいでは食べるのが惜しいような自分好みの絵を描いて楽しんだ日もあります。看取りに入った利用者が4名いますが、中には1年を経ている人もいて、ペースト食を少しから食事が3食と向上し、現在は常食を完食するまでになって、延命は事業所の「生き生き生きる」の方針と職員の尽力の賜物と受けとめられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生き生き生きる」を運営理念とし、職員一同で毎日朝礼時に唱和することで入居者様が生き生き生きる表情が見受けられる場面を設定出来るように努め、いつまでもお元気でその方らしくお過ごし頂けるように入居者様のケアを実践している。	新しく着任した管理者は、運営理念「生き生き生きる」に基づき、「利用者にも少しでも生活のほりをもってもらう」「役割をもってもらえる工夫をしよう」を介護ケアの柱にして、利用者とともに職員を見守っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ流行以前は年2回の防災訓練への参加をしていたが入居者様の感染防止のため今年度は参加中止とした。	コロナ禍前には地域の防災訓練へと利用者も参加していましたが、現在は外気浴や散歩での挨拶が主になっています。また挨拶から立ち話となり、雑談の中で介護の相談が持ち上がることもあります。コロナ禍前から地域交流は活発とは言い難く、やや課題です。	コロナが終息したときになって急に親しくはなれないので、今から準備できるものは着手することを期待します(例. キャラバンメイトの講師派遣、地域に向けた介護教室や自治会と合同のAED訓練会)。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設前をお散歩されている方から在宅介護の相談や入居者様のお散歩中に挨拶を交わす際に認知症を理解して頂けるように会話を通じて努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染拡大に伴い外部の方の入館を制限しており書面での開催が続いている。今後はコロナ感染状況を見ながら外部の方をお呼びし意見を聴衆し出来る限りサービスの向上に活かしていく。	運営推進会議は、町内会長、民生委員、市の介護保険課、地域包括支援センターとメンバーを揃えてはいますが、コロナ感染対策として参会しない書面開催が続いていて、意見交換はありません。家族はLINEやアプリで意見を収受しています。	書面をメンバーに送るとき返信シートを同封、質問を添えたりして、意見がもらえる工夫があることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議が書面開催のため、市の介護保険課と担当地域支援包括センターへ書面開催案内文の中に意見聴衆のスペースを設けてご意見を求めている。	富士市のメール配信は漏らさず確認しています。また市からは消毒液や使い捨ておしぼりが、県からはガウンやマスク、手袋のほか、抗原検査キッドが届いています。抗原検査は連続15週報告を重ね、チェックに努めました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言中であり、年間2回の研修を実施している。毎回運営推進会議後に身体拘束廃止委員会を実施しており今年度は既に3回実施済み。11月、1月、3月の運営推進会議の時に実施予定。委員会は2か月に一度実施している。	運営推進会議後に身体拘束廃止委員会、更に続けて高齢者虐待防止委員会を隔月開催しています。働きやすい職場づくりから本件の解決を図る取組みも並行してあり、職場環境改善委員会を発足しハラスメントのない風通しのよい職場作りにつなげています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間2回の研修を実施している。毎回運営推進会議後に高齢者虐待防止委員会を実施しており今年度は既に3回実施済み。11月、1月、3月の運営推進会議の時に実施予定。委員会は2か月に一度実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政や包括からの発信を受け止め権利擁護事業についての情報を得るように努めている。ご家族様から相談を受ければ速やかに対応できるように心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に時間を取って説明をして疑問点は納得が得られるように丁寧な説明を心がけており納得して頂いたうえでサインを頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議が書面での開催が多いため、日々日常でLINEでの質疑応答や、本部から発信しているご家族様アンケートを通じてご意見を頂き施設運営に反映させる取り組みをしている。	事業所通信の「笑顔通信」には利用者同士でゲームに没頭する姿や真剣に作業する様子などが掲載されるとともに、最近ではLINE動画も配信され、家族からは「ありがたい」の言葉が届いています。また家族の相談から歯科衛生士に話をつなげた例もあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談の実施や日頃より職員とのコミュニケーションは密にとっている。直接管理者へ言えないことやハラスメントに関する相談は意見箱を設置しており、職場環境改善委員が管理して改善提案を反映出来る仕組みがある。	新卒者をはじめ若年者が半数を占める職員集団です。若い人ははつらつさや素直さなどを発揮、また年長者は経験を活かしてバックアップするという相互扶助があり、法人の敷く個人面談や研修制度を基盤として毎月の定例会議では建設的な意見交換がみられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2度職能評価を実施しており職員個々の努力や実績が評価に反映されるシートを使用して職場環境の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新卒職員への研修カリキュラムが整備されており、6ヶ月間施設研修を経て配属となる。既卒や中途入職の職員へのフォローアップ研修も充実している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ流行以前は富士市グループホーム連絡協議会に参加しており、例年意見交換を頻繁にしていたが今年度は対面での実施はなかった。オンライン開催の通知を受けたが予定が合わずに参加出来なかった。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居前には職員間でカンファレンスを実施し、ご本人の生活歴や既往歴ご家族関係や趣味嗜好等の情報を共有し入居後1ヶ月は細心の注意を払いニーズを抽出してケアに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のアセスメントでご家族様のニーズを抽出するように努めている。入居後は細目に日常生活のご様子をお伝えするように努めている。Lineアプリに写真を載せてご本人の表情がわかるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	15、16でのニーズを抽出するにあたり、必要に応じて他のサービスも導入する様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや洗濯物たたみ、掃除機をかける等を職員と一緒にすることで役割を持って頂ける様に支援し関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ流行前は面会時にご本人とご家族の絆を大切にしてきた。現在はLine電話を活用することでお互いの顔が見える様に配慮している。ご本人とご家族の絆を大切にしながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ対応で面会自粛となっているが通常時はいつでも面会が出来る体制を整えている。またご本人の馴染みの人や場所がある場合は外出支援を行っており関係性が途切れないようにしている。	習慣を続け、役割を感じてもらう生活を目指しており、終末期にあってもタオルたたみをエアでやることで励みにしてもらうなど工夫しています。中には朝刊の天気予報欄を毎日切り抜いている人もいて、職員の「今日もありがとう」の声を張り合いにしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士がふれあいや会話出来る環境を整え大切にしている。また職員が仲介することもあり人間関係が円滑にいくように心掛けて支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去後もご本人様の近況を教えて下さる方や、お知り合いの介護上でのご相談をされてくる方もいっしょり永くお付き合いさせて頂いている。退去後も必要に応じてご本人様やご家族様の支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の普段の会話やモニタリングから不安や悩みを聞き取りケアプランに反映させご意向が反映されたケアの実践に努めている。必要に応じてご家族様の協力もお願いしている。	入居したばかりのときや不穏がみられる場合にはセンター方式の24時間シートを使っています。散歩や夕食までのアイドルタイムなどを利用して、食べ物や昔の話をゆっくり聞くと、話に膨らみがでて新しい発見となることもあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントでご本人様やご家族様から得られる情報を基にして入居者様の身体状況や生活状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態変化に応じてカンファレンスを実施し現状把握し記録していき、職員間での情報共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定例会議やカンファレンスで職員間での意見交換を実施しモニタリングを実施する。またご本人様とご家族様からの意見を取り入れて専門職や関係機関と連携し介護計画を作成している。	若い新卒者が締めている分パートタイマー職は少なく、定例会のカンファレンスで2表をみながら協議するので理解共有が確かです。また2ユニット1名配置でよいとなった計画作成担当者は、「しっかりみたい」との考えから、今後も減らさず2名の予定です。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や心身状況の変化、発言等は真実ではなく事実を記載して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の状況変化でニーズが変わってきたときはその都度検討し実行する。実行後はサービスが適切だったかを職員で検証しより良いサービス提供ができるように柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域との交流が難しい中であるが、ご本人様がこれまで活用されていた社会資源の把握に努め必要に応じて再活用していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居者18名様に対して連携医が看護師を伴い月2回往診で訪問されている。外科医療等の専門医受診が必要の際には都度受診対応に応じている。	看護師と薬局薬剤師も帯同する協力医による月2回の訪問診療があり、往診前・往診後の報告でと密な連携を図っています。また専門医は家族の要望から管理者または計画作成担当者が通院支援をおこない、普段の様子を円満に医師に伝えることが叶っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回訪問看護師に来て頂いている。日々の経過や気づいた点は来所時に報告や相談をしている。緊急時は連絡して指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された際は病院関係者へ施設での状況を情報提供し早期退院となるように協力をしている。コロナ対応で入院中の面会が難しい状況下の為ご家族様と病院の相談員と連携をとり、ご本人様の入院中のご様子を教えて頂き退院が円滑に進むように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様が重度化される前段階で意向確認を実施している。終末期でのお看取りを希望された場合は施設で対応出来ることを十分に説明してご理解を頂いた上で看取り同意書にサインを頂いている。	4名が医師の看取り宣告を受け1名のみ進行していますが、他3名の内1名は常食に戻る等脅威の回復力を見せています。「賑やかなほうがいいよね」とリビングのソファーによこになってもらうなど、本人の状態や意向に合わせて柔軟に環境を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成して事務所へ掲示している。介護系有資格者が増えてきたことで緊急時対応の理解も深まってきている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内で非常災害に対応すべくマニュアルを作成してあり職員が閲覧出来るようになっている。今年度は既に5月、6月、9月に防災訓練を実施済で火災や地震、水災害を模した訓練を実施済である。地域の防災訓練はコロナ対策で参加出来ていない。	風水害の避難訓練は6月におこなっており、火災想定など年4回実施で法定訓練の倍の取り組みです。配属された一番最初の指導内容にも避難経路などが含まれており、「要介護者を優先して」といった方法が定まっています安心な体制にあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様へは名字にさん付けでお呼びし、同じ名字ならどちらかをお名前にさんを付けてお呼びすることを遵守している。パット交換では新聞紙にくるんでわからないように配慮しプライバシーの保護に努めている。	トイレや居室のノックや声かけ、着替えではカーテンを引くといったマナーやエチケットは職員に不足はありません。名字が同じ人が2名いますが男性は名字、女性はファーストネームとしてニックネームなどは厳禁とし、申し送りでは居室番号を使うようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活での入居者様との関りの中で会話や行動を通じて希望や思いを感じ取り可能な限り叶えられるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛けやご本人様と接する中でその日にやりたいことを読み取り出来得る限り叶えられるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後に髪の整髪を行っている。訪問美容師の来所時にご本人様からの要望を伺いカラーやパーマをご希望に沿う形で対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じたメニューを用意してありイベントメニューを設けている。法人からはご長寿とスタミナ増進を願い毎月うなぎを提供している。うなぎが苦手な方へは代替え食の提供をしている。	利用者のリクエストに応えるお楽しみメニューが週2回、長寿を願う鰻が毎月1回提供されており、また生活リハビリを通じたやりがい創出にも力をいれており、利用者にも手伝いをしてもらいながら楽しい食卓としています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様個々の嚥下状態に合わせた食事形態にしており残さずに食べられる量の提供をしている。水分は個々の嗜好に合わせて好きな飲み物を提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご自身で出来る方へは声掛けで行って頂き、介助が必要な方には職員が行っている。現在2名様は口腔ケアで連携歯科医の指導を仰いでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中帯は可能な限りトイレで排泄が出来るように早めに誘導を行っている。自立の方はその状態を出来るだけ維持するように支援している。入居者様個々の排泄パターンを把握して時間でトイレへ誘導している。オムツや尿取りパットの使用量を減らしてご家族様の経済的負担を減らす。	ベッド上での交換となっている人が3名いますが、2人介助でなんとかできるケースでは座面に座ってもらえるように工夫しています。また早めの声がけで汚染を減らして本人の快適ととともに家族の経済的負担にも貢献しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝食にヨーグルトを提供しており自然排便を促している。また毎食時のお茶をしっかりと飲んで頂くように声掛けでお勧めし10時と15時のティータイムは入居者様の嗜好に合わせた飲み物を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本としているがご希望があれば回数制限を設けずにいつでも入浴出来るように配慮している。入浴剤も3種類ご用意しており好きなものを選んで頂くようにしている。	週2回の入浴のほかにプラスの希望者はなく、拒否は3名います。拒否の人は先ずは同性介助であることが入浴につながるとして、シフトなど工夫しています。入浴剤を選べ、また職員が歌うことで本人も口ずさむ和やかな入浴と成っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力と体調を考慮して日中の臥床時間を設けたり、レクリエーションも無理な参加を求めないようにしている。ご本人様の意向を尊重し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様毎に薬剤情報を専用のファイルにまとめいつでも確認が出来るようにしている。医師の指示等で変更があった際には職員間で情報共有して周知に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様個々の状態に合わせて家事のお手伝いを役割分担をお願いしている。レクリエーションも運動系や脳トレーニング系と得意や不得意があるのでバランス良く実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ対策で遠方への外出は制限があるが、近隣の散歩や施設玄関での日光浴を楽しんで頂いている。	平均介護度3.2でやや重度化が進むも、散歩や外気浴が日常にあり、また感染対策に配慮しつつ11月には港が見える丘公園へお弁当持参でピクニックの予定です。また大きなスクリーンを備えており、ビデオ鑑賞で旅した気分にも浸れています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は基本はご家族が行っている。外出時に購入を希望された場合は施設で立て替えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご本人様から希望があればいつでも掛けることができる用意をしている。手紙を書く事が出来る方はやり取りを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂からの日光で入居者様へ不快な思いをさせないようにカーテン開閉に配慮している。コロナ対応で毎日窓を開放して換気し空気の入替えをしている。テレビをご覧にならない方達へYouTubeを利用した音楽を流してリラックスして頂いている。	1階ユニット、2階ユニットの職員はそれぞれ固定で、消毒清掃も1日1回を3回に増やして感染対策に努めています。また夏祭りやハロウィンと時節行事も盛んで、工夫を凝らした飾り付けから季節を感じることもできています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは仲の良い方達で会話が弾むように座席を検討したり、ソファで気分転換できるように声掛けをしている。可能な限りご本人様がくつろげるスペースの提供に心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に仏壇を持ち込まれたり、ご家族との思い出写真を飾ったり、ご自身で決めたタンス整理は職員が手を出すことはせずに居心地良く過ごして頂くようにしている。	携帯電話はありませんが、テレビの持ち込みは5台あります。ただ普段はリビングの滞留時間がながく居室は就寝室と化している為、終末期のため自室で仰臥状態の人も職員がドアを開けておくことでリビングのさざめきが耳に入り、本人も安心しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の動線を確保して出来るだけ安全に歩行出来るように配慮して見守りを実施している。入居者様の状態に応じてベッドの向きやタンスの位置等を適宜変更している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272300969		
法人名	特定非営利活動法人シンセア		
事業所名	グループホームたみの里一日乃出町 2F		
所在地	静岡県富士市日乃出町81		
自己評価作成日	令和4年9月28日	評価結果市町村受理日	令和4年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jiyosyoCd=2272300969-00&serviceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で外出制限もあり施設内で季節を感じて頂けるようなレクリエーションやイベントを提供してきました。日常生活では皆様に役割を持って頂き、ご自身の自尊心を大切に生きがいの創出に努めております。面会制限が続く中でご家族様へ日常生活やレクリエーションの様子をLINEにて動画を配信しております。また職員の職場環境改善の一環で職場環境改善委員会を発足しハラスメントのない風通しのよい職場作りを目指しており、意見聴衆のために意見箱を設置し月に1回委員会で他施設との意見交換を行っております。研修については年間テーマに沿って有資格者職員が担当となり実施し職員のスキルアップ向上に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営理念「生き生き生きる」に基づき、「利用者に少しでも生活のはりをもってもらう」「役割をもってもらえる工夫をしよう」を介護ケアの柱にしている事業所です。毎月鯉の日があり、ホットプレートを駆使したおやつ作りが盛んで、またミニミニ縁日ではチョコバナナやフルーツポンチに舌鼓するほか、落書きせんべいでは食べるのが惜しいような自分好みの絵を描いて楽しんだ日もあります。看取りに入った利用者が4名いますが、中には1年を経ている人もいて、ペースト食を少しから食事が3食と向上し、現在は常食を完食するまでになって、延命は事業所の「生き生き生きる」の方針と職員の尽力の賜物と受けとめられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生き生き生きる」を運営理念とし、職員一同で毎日朝礼時に唱和することで入居者様が生き生き生きる表情が見受けられる場面を設定出来るように努め、いつまでもお元気でその方らしくお過ごし頂けるように入居者様のケアを実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ流行以前は年2回の防災訓練への参加をしていたが入居者様の感染防止のため今年度は参加中止とした。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設前をお散歩されている方から在宅介護の相談や入居者様のお散歩中に挨拶を交わす際に認知症を理解して頂けるように会話を通じて努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染拡大に伴い外部の方の入館を制限しており書面での開催が続いている。今後はコロナ感染状況を見ながら外部の方をお呼びし意見を聴衆し出来る限りサービスの向上に活かしていく。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議が書面開催のため、市の介護保険課と担当地域支援包括センターへ書面開催案内文の中に意見聴衆のスペースを設けてご意見を求めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言中であり、年間2回の研修を実施している。毎回運営推進会議後に身体拘束廃止委員会を実施しており今年度は既に3回実施済。11月、1月、3月の運営推進会議の時に実施予定。委員会は2か月に一度実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間2回の研修を実施している。毎回運営推進会議後に高齢者虐待防止委員会を実施しており今年度は既に3回実施済。11月、1月、3月の運営推進会議の時に実施予定。委員会は2か月に一度実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政や包括からの発信を受け止め権利擁護事業についての情報を得るように努めている。ご家族様から相談を受ければ速やかに対応できるように心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に時間を取って説明をして疑問点は納得が得られるように丁寧な説明を心がけており納得して頂いたうえでサインを頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議が書面での開催が多いため、日々日常でLINEでの質疑応答や、本部から発信しているご家族様アンケートを通じてご意見を頂き施設運営に反映させる取り組みをしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談の実施や日頃より職員とのコミュニケーションは密にとっている。直接管理者へ言えないことやハラスメントに関する相談は意見箱を設置しており、職場環境改善委員が管理して改善提案を反映出来る仕組みがある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2度職能評価を実施しており職員個々の努力や実績が評価に反映されるシートを使用して職場環境の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新卒職員への研修カリキュラムが整備されており、6ヶ月間施設研修を経て配属となる。既卒や中途入職の職員へのフォローアップ研修も充実している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ流行以前は富士市グループホーム連絡協議会に参加しており、例年意見交換を頻繁にしていたが今年度は対面での実施はなかった。オンライン開催の通知を受けたが予定が合わずに参加出来なかった。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居前には職員間でカンファレンスを実施し、ご本人の生活歴や既往歴ご家族関係や趣味嗜好等の情報を共有し入居後1ヶ月は細心の注意を払いニーズを抽出してケアに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のアセスメントでご家族様のニーズを抽出するように努めている。入居後は細目に日常生活の様子をお伝えするように努めている。Lineアプリに写真を載せてご本人の表情がわかるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	15、16でのニーズを抽出するにあたり、必要に応じて他のサービスも導入する様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや洗濯物たたみ、掃除機をかける等を職員と一緒にすることで役割を持って頂ける様に支援し関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ流行前は面会時にご本人とご家族の絆を大切にしてきた。現在はLine電話を活用することでお互いの顔が見える様に配慮している。ご本人様とご家族様の絆を大切にしながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ対応で面会自粛となっているが通常時はいつでも面会が出来る体制を整えている。またご本人の馴染みの人や場所がある場合は外出支援を行っており関係性が途切れないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士がふれあいや会話ができる環境を整え大切にしている。また職員が仲介することもあり人間関係が円滑にいくように心かけて支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去後もご本人様の近況を教えて下さる方や、お知り合いの介護上でのご相談をされてくる方もいっしょり長くお付き合いさせて頂いている。退去後も必要に応じてご本人様やご家族様の支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の普段の会話やモニタリングから不安や悩みを聞き取りケアプランに反映させご意向が反映されたケアの実践に努めている。必要に応じてご家族様の協力もお願いしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントでご本人様やご家族様から得られる情報を基にして入居者様の身体状況や生活状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態変化に応じてカンファレンスを実施し現状把握し記録していき、職員間での情報共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定例会議やカンファレンスで職員間での意見交換を実施しモニタリングを実施する。またご本人様とご家族様からの意見を取り入れて専門職や関係機関と連携し介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や心身状況の変化、発言等は真実ではなく事実を記載して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の状況変化でニーズが変わってきたときはその都度検討し実行する。実行後はサービスが適切だったかを職員で検証しより良いサービス提供ができるように柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域との交流が難しい中であるが、ご本人様がこれまで活用されていた社会資源の把握に努め必要に応じて再活用していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居者18名様に対して連携医が看護師を伴い月2回往診で訪問されている。外科医療等の専門医受診が必要の際には都度受診対応に応じている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回訪問看護師に来て頂いている。日々の経過や気づいた点は来所時に報告や相談をしている。緊急時は連絡して指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された際は病院関係者へ施設での状況を情報提供し早期退院となるように協力をしている。コロナ対応で入院中の面会が難しい状況下の為ご家族様と病院の相談員と連携をとり、ご本人様の入院中のご様子を教えて頂き退院が円滑に進むように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様が重度化される前段階で意向確認を実施している。終末期でのお看取りを希望された場合は施設で対応出来ることを十分に説明をしてご理解を頂いた上で看取り同意書にサインして頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成して事務所へ掲示している。介護系有資格者が増えてきたことで緊急時対応の理解も深まってきている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内で非常災害に対応すべくマニュアルを作成してあり職員が閲覧出来るようになっている。今年度は既に5月、6月、9月に防災訓練を実施済みで火災や地震、水災害を模した訓練を実施済みである。地域の防災訓練はコロナ対策で参加出来ていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様へは名字にさん付けでお呼びし、同じ名字ならどちらかをお名前にさんを付けてお呼びすることを遵守している。パット交換では新聞紙にくるんでわからないように配慮しプライバシーの保護に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活での入居者様との関りの中で会話や行動を通じて希望や思いを感じ取り可能な限り叶えられるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛けやご本人様と接する中でその日にやりたいことを読み取り出来る限り叶えられるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後に髪の毛の整髪を行っている。訪問美容師の来所時はご本人様からの要望を伺いカラーやパーマをご希望に沿う形で対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じたメニューを用意してありイベントメニューを設けている。法人からはご長寿とスタミナ増進を願い毎月うなぎを提供している。うなぎが苦手な方へは代替え食の提供をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様個々の嚥下状態に合わせた食事形態にしており残さずに食べきれる量の提供をしている。水分は個々の嗜好に合わせて好きな飲み物を提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご自身で出来る方へは声掛けで行って頂き、介助が必要な方には職員が行っている。現在2名様は口腔ケアで連携歯科医の指導を仰いでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中帯は可能な限りトイレで排泄が出来るように早めに誘導を行っている。自立の方はその状態を出来るだけ維持するように支援している。入居者様個々の排泄パターンを把握して時間でトイレへ誘導している。オムツや尿取りパットの使用量を減らしてご家族様の経済的負担を減らす。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝食にヨーグルトを提供しており自然排便を促している。また毎食時のお茶をしっかりと飲んで頂くように声掛けでお勧めし10時と15時のティータイムは入居者様の嗜好に合わせた飲み物を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本としているがご希望があれば回数制限を設けずにいつでも入浴出来るように配慮している。入浴剤も3種類ご用意しており好きなものを選んで頂くようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力と体調を考慮して日中の臥床時間を設けたり、レクリエーションも無理な参加を求めないようにしている。ご本人様の意向を尊重し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様毎に薬剤情報を専用のファイルにまとめいつでも確認が出来るようにしている。医師の指示等で変更があった際には職員間で情報共有して周知に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様個々の状態に合わせて家事のお手伝いを役割分担をお願いしている。レクリエーションも運動系や脳トレーニング系と得意や不得意があるのでバランス良く実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ対策で遠方への外出は制限があるが、近隣の散歩や施設玄関での日光浴を楽しんで頂いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は基本はご家族が行っている。外出時に購入を希望された場合は施設で立て替えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご本人様から希望があればいつでも掛けることができる用意をしている。手紙を書く事が出来る方はやり取りを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂からの日光で入居者様へ不快な思いをさせないようにカーテン開閉に配慮している。コロナ対応で毎日窓を開放して換気し空気を入れ替えをしている。テレビをご覧にならない方達へユーチューブを利用した音楽を流してリラックスして頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは仲の良い方達で会話が弾むように座席を検討したり、ソファで気分転換できるように声掛けをしている。可能な限りご本人様がくつろげるスペースの提供に心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に仏壇を持ち込まれたり、ご家族との思い出写真を飾ったり、ご自身で決めたタンス整理は職員が手を出すことはせずに居心地良く過ごして頂くようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の動線を確保して出来るだけ安全に歩行出来るように配慮して見守りを実施している。入居者様の状態に応じてベッドの向きやタンスの位置等を適宜変更している。		